第 2 回スライド説明会　　平成 30 年 6 月 17 日（日）

鈴鹿市考古博物館　講堂

磐城山遺跡第 10 次

はじめに

調査原因	農地改良工事
調査期間	平成 29 年 5 月 22 日～平成 30 年 3 月 30 日
調査主体	鈴鹿市　文化スポーツ部　文化財課　発掘調査G
調査面積	約 700 m^2

1　調査の成果

1）これまでの調査（図 2）

①　弥生時代後期（西暦 100-200 年前後）の環濠に区切られた集落（竪穴住居）が 200～300 棟ある

②　古墳時代後期（西暦 500 年前後）の集落が調査区の東端に固まって数 10 棟ある

③　古墳時代の終わりから飛鳥時代（西暦 600 年前後）と推測される 70mの前後の区画（溝）がありそう?

④　調査区の西側で古代（西暦 600-800 年年前後か?）の掘立柱建物が多い

⑤　倉庫（総柱建物）が区画溝と同じ方向を向いて何度も建て替えられている

⑥　室町時代から戦国時代（西暦 1500 年）頃の墓（土坑墓）と，木田城関係と思しき地割溝がある

2）第 10 次調査の成果

①　弥生時代の集落（方形の竪穴住居）に，円形住居が 2 棟あることを確認

②　室町時代から戦国時代の痕跡（道路跡や地割り，掘立柱建物，方形竪穴（穴倉）等）が増えてきた

2　弥生時代後期

1）年　　代　西暦 50 年頃から 250 年頃　※近年，年代値がゆらいでいる

2）文字資料　歴史書の存在･･･『漢書』,『三国志』,『後漢書』など（資料一①-④）

3）気　　候　寒冷期，異常気象多発?（図 1）

4）検出遺構　竪穴住居 21 棟以上+排水溝多数（写真 1～4）

5）課　　題　円形住居 2 棟を確認，重複関係では一番古い　→　磐城山遺跡の成立に関わる

竪穴住居からのびる排水溝（弥生時代後期頃以降にみつかる）

→古環境との関わり，起源はどこか？

３　古墳時代の終わりから飛鳥時代

１）年　　代　　西暦 550 年頃から 600 年代

２）文字資料　　国内の歴史書･･･『日本書紀』,『古事記』など（資料一⑤，図 4）

→古代豪族 大鹿氏の存在が指摘されている

３）検出遺構　　竪穴住居 1 棟+2 棟?，他は希薄

４）課　　題　　区画内部に調査が進んできたが，この時期の遺構が希薄　→　区画があるのか？

屯倉等の性格の再考

４　室町時代から戦国時代

１）年　　代　　西暦 1400 年から 1500 年頃か？

２）検出遺構　　道路跡（地割溝），掘立柱建物，土坑墓など，+α として方形竪穴（穴倉）（写真 5･6）

３）課　　題　　西に隣接して木田城が登録，城に関わる遺構か？　→　今後増える見込み

おわりに～今後の発掘調査の予定～

今後，更に西へ調査区を拡張していく予定だが，次回でほぼ終了（図 3）

→　①　区画溝の西辺の有無の確認

②　区画内部の建物（倉庫?・居館？）の配置・構造の解明

③　木田城に関わる遺構の確認

④　年代を特定できる出土遺物に期待

写真 4
円形の竪穴住居跡（西から）

写真 5
道路跡（南から）

写真 6
方形竪穴（穴倉か）（東から）

資料一

①『漢書』地理志　燕地条

「楽浪海中有倭人　分為**百余国**　以歳時来献見云」

②『三国志』 魏書　東夷伝（魏志倭人伝）

「倭人在帯方東南大海之中　依山島為国邑　旧百余国　漢時有朝見者　今使訳所通三**十国**」

「其国本亦以男子為王　**住七八十年**　**倭国乱**　相攻伐歴年　乃共立一女子為王　名日卑弥呼」

③『後漢書』東夷伝

「建武中元二年（57）　倭奴国奉貢朝賀　使人自称大夫　倭国之極南海也　光武賜以印綬」

「安帝永初元年（107）　倭国王師升等　献生口百六十人願請見」

「桓霊間（146-189）　**倭国大乱**　更相攻伐歴年無主　有一女子　名日卑弥呼」

④『三国史記』新羅本記

「伐休尼師今十年六月　**倭人大飢**　**来求食者千余人**」

⑤『日本書紀』 巻第廿　敏達天皇四年（575）春正月

「次采女　**伊勢大鹿首小熊**女　曰**菟名子**夫人　生太姫皇女更名櫻井皇女　與**糠手姫皇女**更名田村皇女」

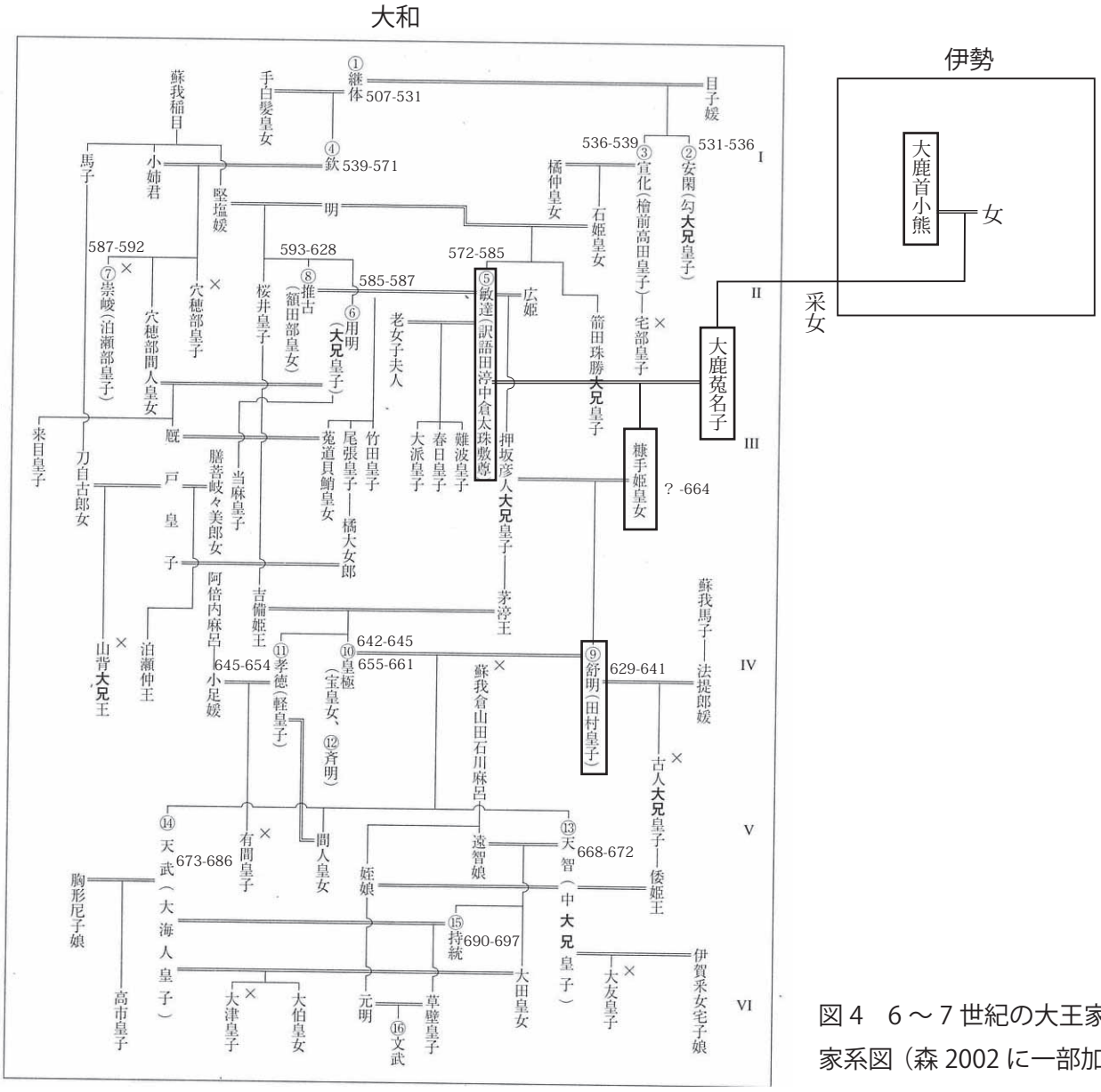

図４　６～７世紀の大王家家系図（森 2002 に一部加筆）

写真 1
第 10 次調査区全景（西から）

写真 2
弥生時代の竪穴住居（南西から）

※　第 9 次調査の写真

写真 3
竪穴住居からの排水溝（南西から）

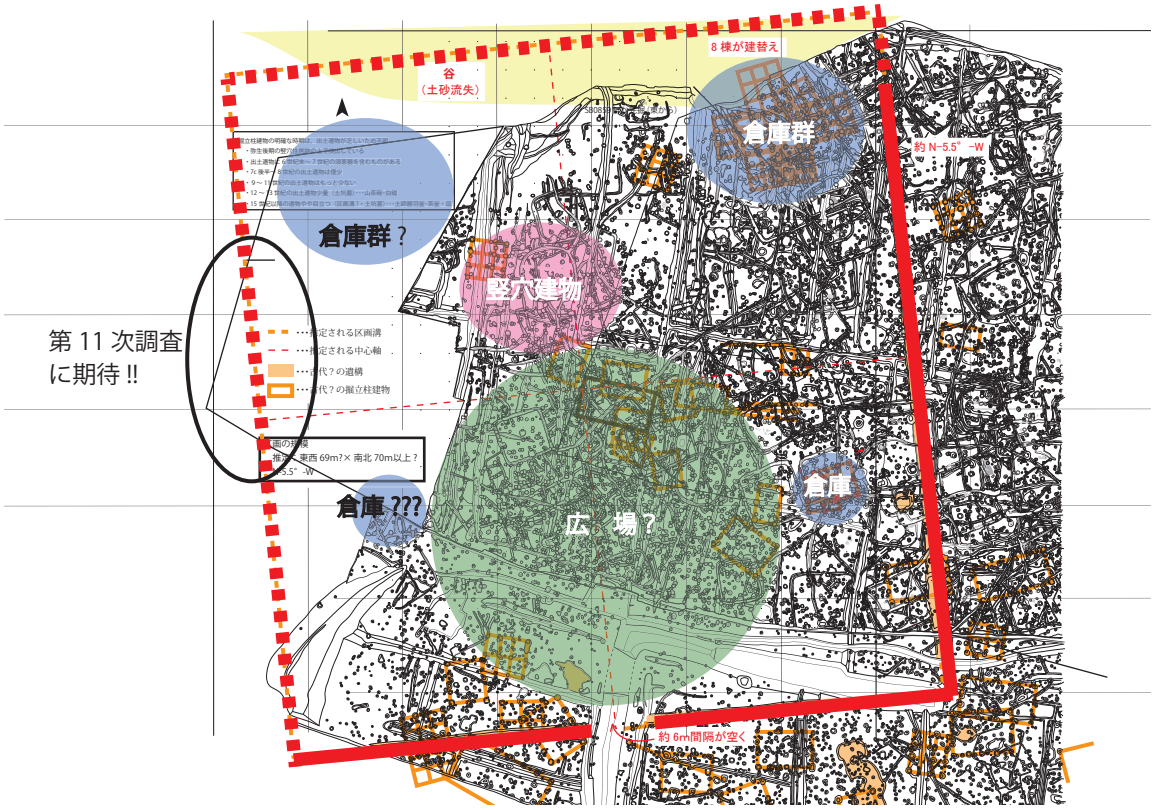

図 3　磐城山遺跡の想定図（S=1/800）

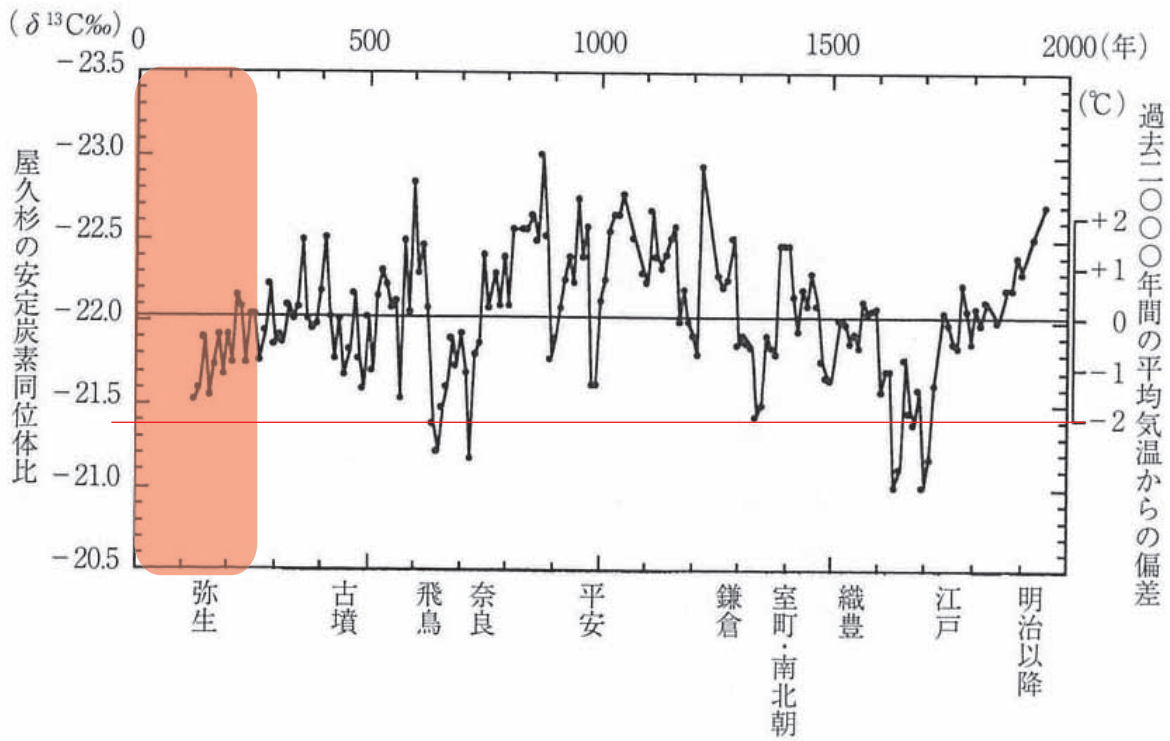

図１　気温の変化

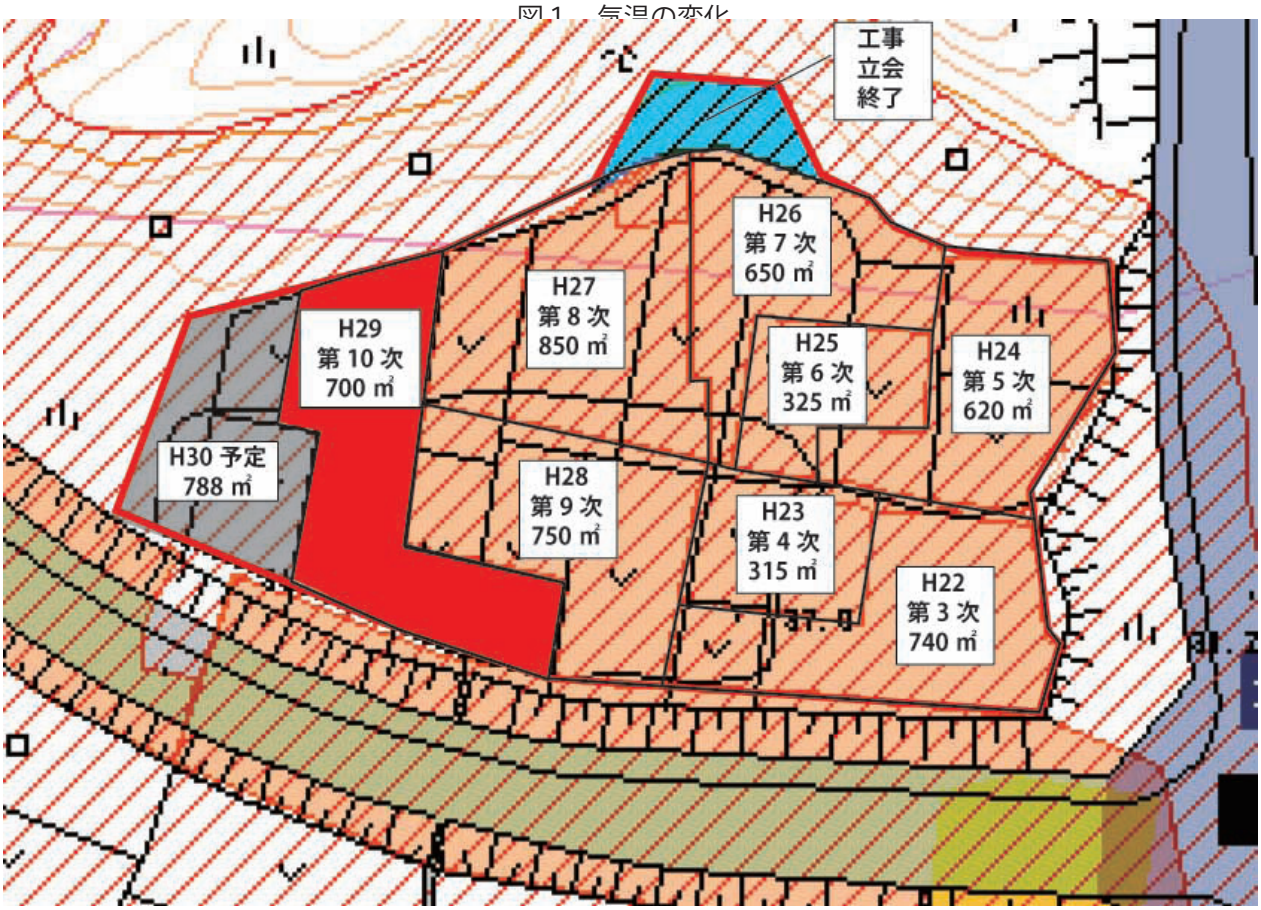

図２　発掘調査の範囲